

連合東京「生活実態緊急アンケート」結果報告

アンケートのご協力ありがとうございました！



1. 調査概要

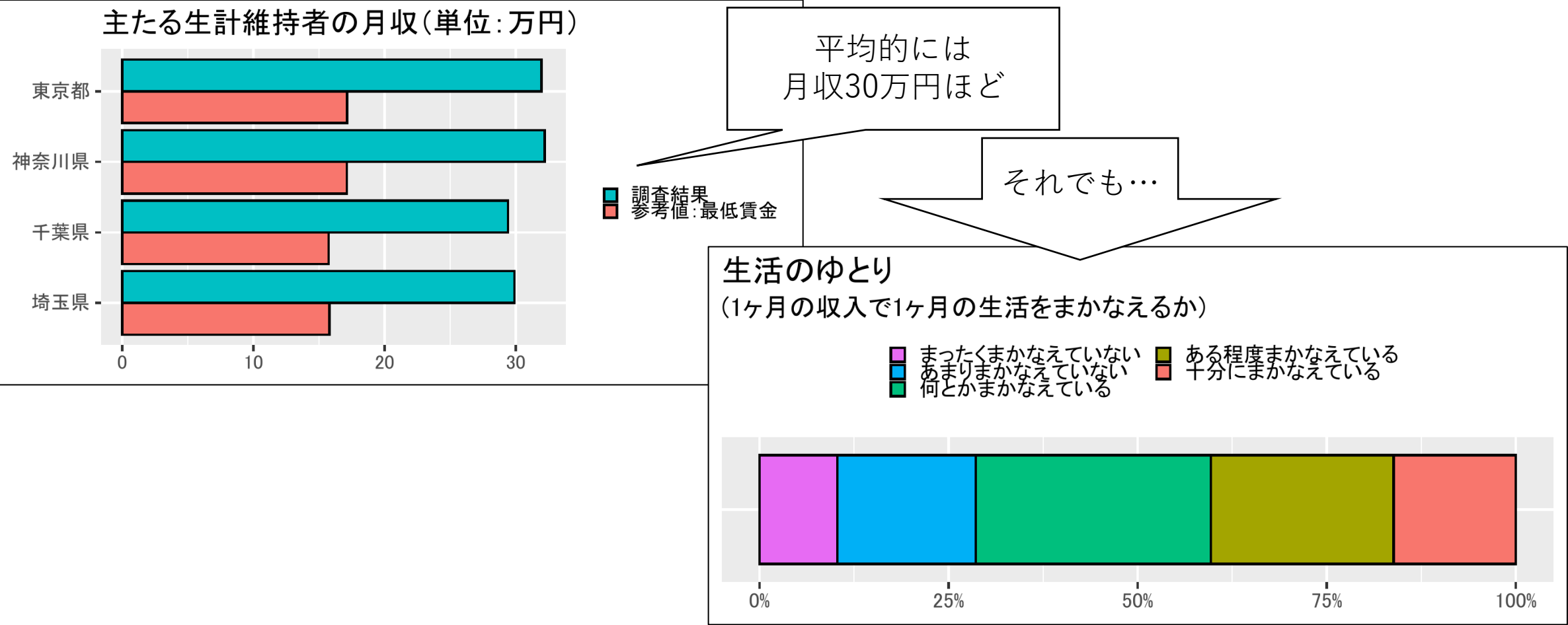
- ・調査期間:2023年2月13日～4月7日
- ・サンプリング:便宜的抽出法(街頭、インターネット等を通じた協力依頼)
- ・回答方法:ウェブアンケートへの自記式・無記名回答
- ・調査担当機関:(公社)国際経済労働研究所
- ・回答数は866件(有効回答数839件)。
- ・居住地では東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県在住者、年齢層では30～40代、性別では男性が多くを占める。

2. 回答者の属性

居住地		年齢層		性別	
東京都	48.5%	29歳以下	12.3%	男性	71.3%
神奈川県	16.2%	30-34歳	17.4%	女性	28.6%
千葉県	11.4%	35-39歳	19.1%	あてはまるものはない・無回答	0.1%
埼玉県	13.7%	40-44歳	13.8%		
関東圏その他	2.7%	45-49歳	15.7%		
関東圏以外	7.4%	50歳以上	22.7%		

3. 家計の収入と生活状況(1)

調査協力者の家庭は、いずれの都県に在住の場合でも、平均的には30万円程度の月収を得ているが、1ヶ月の収入で1ヶ月の生活が「何とかまかなえている(貯金をする余裕はほとんどない)」という回答は3割で、「まったくまかなえていない」、「あまりまかなえていない」とあわせると6割に達する。すなわち、平均月収30万円程度 of 家庭でさえ、貯金をする余裕がない家庭が6割を占める。

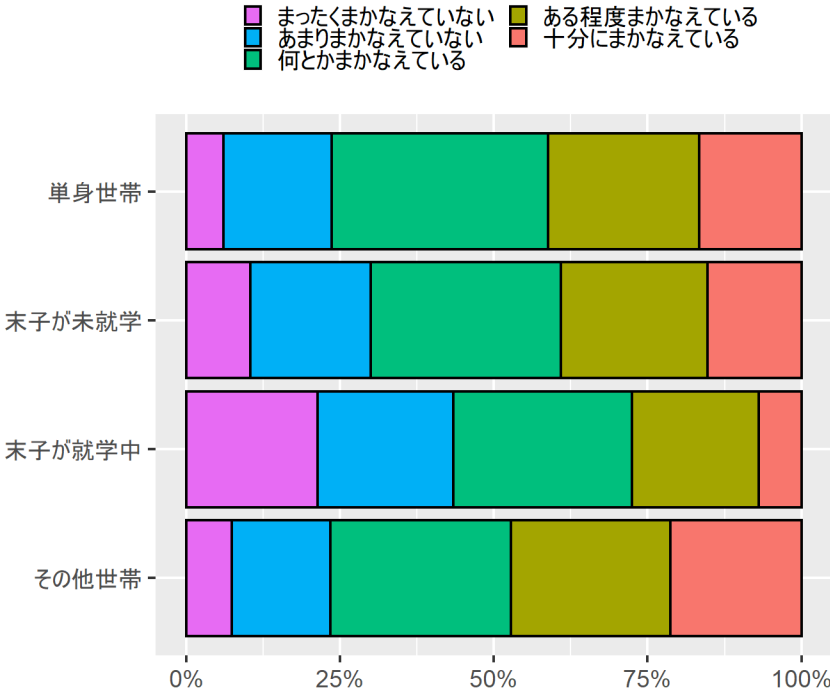


4. 家計の収入と生活状況

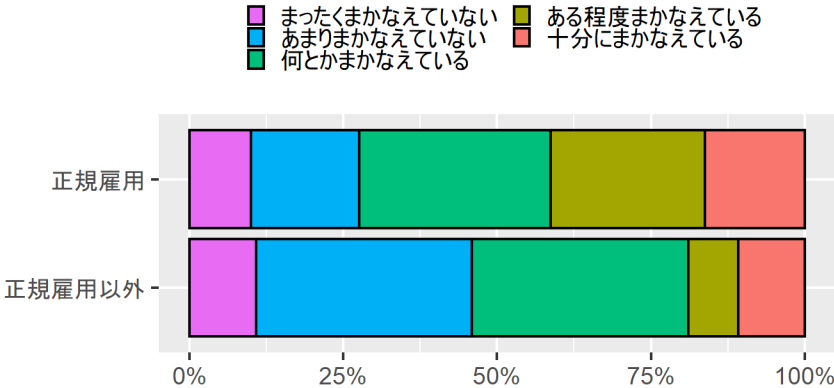
全体としては貯金をする余裕がない家庭が6割ほどであったが、世帯によって状況には大きな差がある。

- ・ 末子が就学中である世帯で、生活をまかなえていないという回答が多い。
- ・ 主たる生計維持者が正規雇用で働いている世帯とそれ以外の世帯のあいだで、生活をまかなえているという回答の比率には顕著な差がある

世帯タイプ別・生活のゆとり



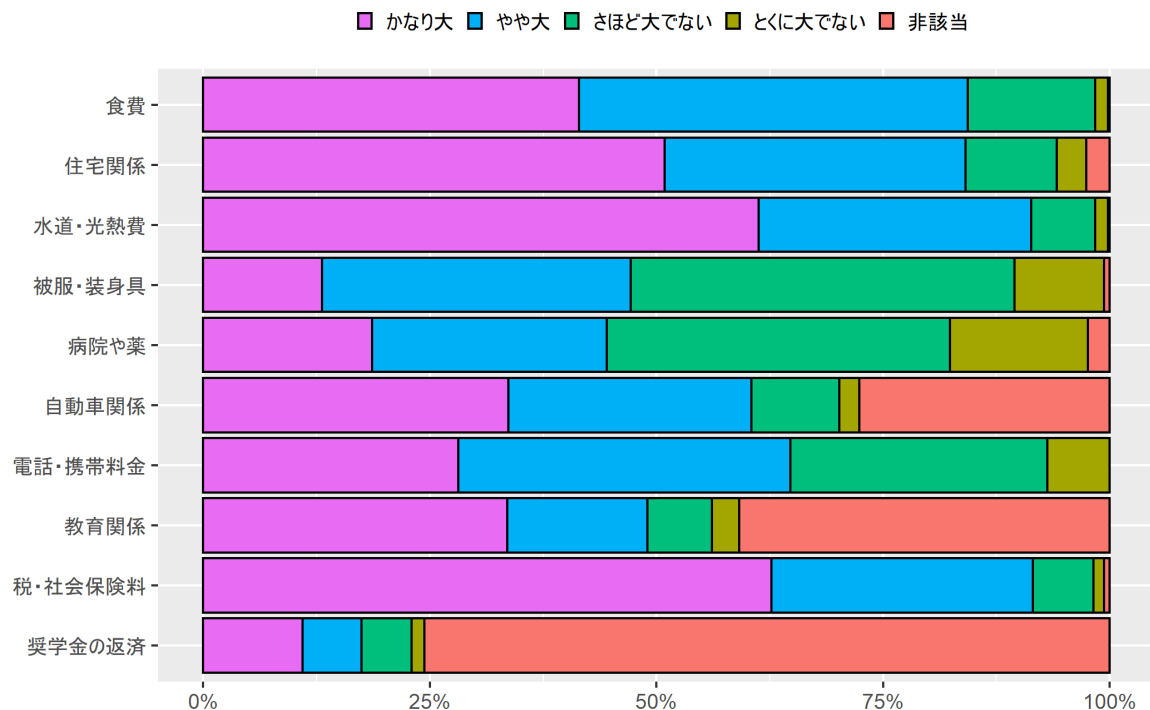
雇用形態別・生活のゆとり



5. 家計への負担となっている支出

「かなり負担が大きい」と感じられているのは、「水道・光熱費」と「税・社会保険料」であり、「食費」と「住宅関係」がそれに続く。

現在、次にあげることについて、経済的な負担が大きいと感じることはありますか
貯金をする余裕がない世帯を抽出



●女性の負担感

女性が主たる生計維持者である家庭でも、「かなり負担が大きい」と感じられているのは「水道・光熱費」と「税・社会保険料」だが、「住宅関係」も「水道・光熱費」と並んで負担が大きいと回答されている。

●非正規労働者の負担感

主たる生計維持者が正規雇用でない場合、左図に比べて、「電話・携帯料金」の負担が大きいという回答が多い。また、左図に比べると「奨学金の返済」を抱えていることがやや多く、返済の必要がある場合に「かなり負担が大きい」という回答が多い。

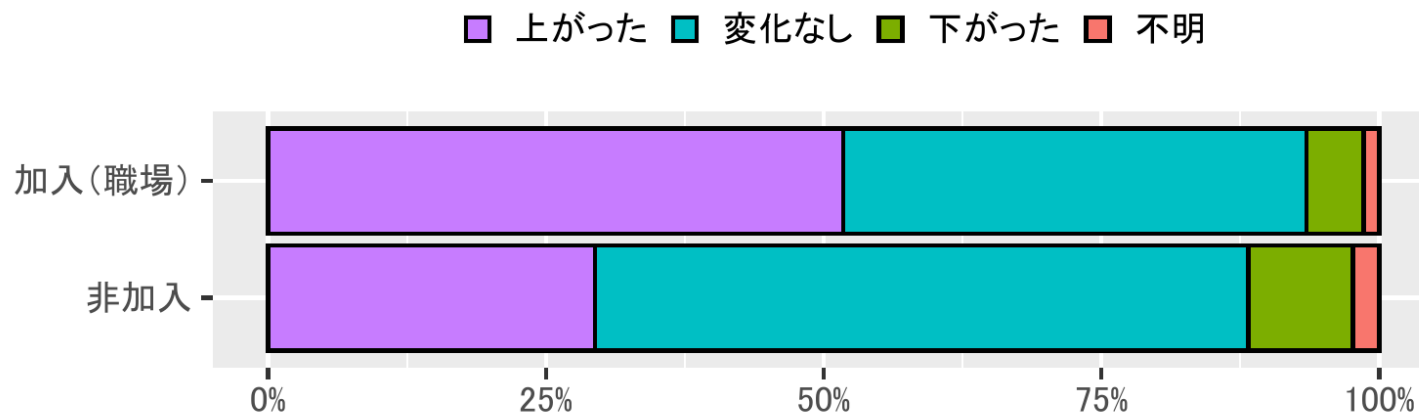
●奨学金の返済を抱えている人の負担感

奨学金の返済を抱えている人のなかでは、返済の負担が「かなり大きい」と「やや大きい」を合わせて7割弱を占める。他の項目について見ると、「住宅関係」を「かなり負担が大きい」とする回答が「水道・光熱費」をやや上回る。

6. 基本給の変化

主たる生計維持者の基本給が2022年1月～12月のあいだに変化したかどうかについて見ると、約半数の家庭において主たる生計維持者の基本給は上がっていない。とくに、主たる生計維持者が労働組合に加入していない家庭では、基本給が上がった家庭は3割に届かない。社会全体で見ると、大きな物価変動に見舞われるなかで収入が変わらないまま生活している世帯が多数を占めることが推測される。

労組加入状況別・賃金の変化



職場以外の労組に加入しているケースはごく少数のため、非掲載。

【連合東京の考察】

労働組合のある企業で働いていると、企業の処遇制度が組合員に説明されており、合理性のない処遇制度は労使協議により改善されているが、労働組合のない企業で働いていると、自らの賃上げの制度などが明確になっていないことが多く、加えて、税・社会保険料負担が増えると手取り額が減少するため、賃上げの実感が得られていないことが考えられる。

7. 現在の生活に関する自由記述

自由記述のデータからワードクラウドを作成(自由記述のデータを単語に分け、出現回数が高い単語ほどサイズが大きくなるように表示・配列したもの。出現回数20以上の単語を抽出)。

※有効回答839件中、自由記述の回答があったのは390件(46.5%)。

- ・「生活(費)」、「光熱(費)」、「電気(代)」、「食費」などの支出が「上がる」、「高騰」している、「高い」といった回答が目立つ。
- ・「子ども」「子育て」「教育」に言及する回答も少なくない。
- ・「将来」「不安」といった回答から、現在の物価高が将来への不安をももたらしていることが推測される。



7. 現在の生活に関する自由記述

家計の状況:何とかまかなえている(貯金をする余裕はほとんどない)

- 給料が上がらないと今後苦しくなる。家が高騰していて購入をあきらめている。
- 消費税が意外とウエイトを占めている
- 国や自治体などで「子育て支援」への取り組みを行っているが、まだまだ対応が足りていないor遅れていると感じる。共働きであるが、妻が時短勤務をしており収入は減っている。一方で物価高により生活に必要なものの価格は上がり、支出が膨れ上がっている。子育てをするということはこれからの国を維持するために必要不可欠なため、そこへの投資を強め、より子育てしやすく、出生率を上げられるよう改革をしていくべきと感じる。
- 物価の上昇、光熱費の上昇の影響が大きく、家計へのダメージが大きい
- 食品や光熱費の高騰は正直厳しい
- 月々の支払いに係る金額(食費・光熱費)が徐々に増えているが公的な援助もなく、ただ出費だけが増えていくだけの生活の為、日を追うごとに悪化しているように感じる
- 電気代の高騰で、ここまで高くなると思っていなかったので、驚いている。
- テレワーク勤務で電気代、水道代、トイレトペーパーなどの日用品の費用増加に頭痛がします。その分外食や交際費、被服の出費は減りましたが厳しいと感じます。

家計の状況:あまりまかなえていない(時おり、貯金を崩したり、お金を借りたりする必要がある)

- 例年以上の賃上げがなければ生活が成り立たない。しかし、企業の負担が多くなり働く場所が無くなってしまいうことも困る。
- とにかく価格変動に見合った収入体系にしてほしい。
- 光熱費と物価が上がっているのにも関わらず、家賃や給与は従来と変わらず、貯金ができなくなった。
- 派遣社員です。6年同じところで働いていますが時給は6年で70円しかあがっていません。自分自身のスキルアップや人間関係も広まり、うまくやっている、先方からもぜひ続けてほしいと言われているが、感情だけではやっていけなくなってきました。年もと不安しかありません。
- サラリーマンばかり税金を多く取るのをやめてほしい。富裕層からもっと取ってほしい。そうすれば経済の好循環につながる。
- 賃金が低すぎる。特に非正規賃金の底上げを至急行うべきと考える。

家計の状況:まったくまかなえていない(ひんぱんに、貯金を崩したり、お金を借りたりする必要がある)

- 収入は増えず、むしろ会社では賃金見直しがされ、子供は成長し教育費がかさむ現状で、どこで精神的安定を求めればいいのか？支援策を国として早急に対応してほしいと強く思う。
- 物価上昇に賃金上昇が追い付いていないため、食事や、衣類買い替えも満足におこなえていません。末端は苦労しています。早急な改善を希望します。
- 賃金はほとんど上がらず、物価高があつという間に進行している。